

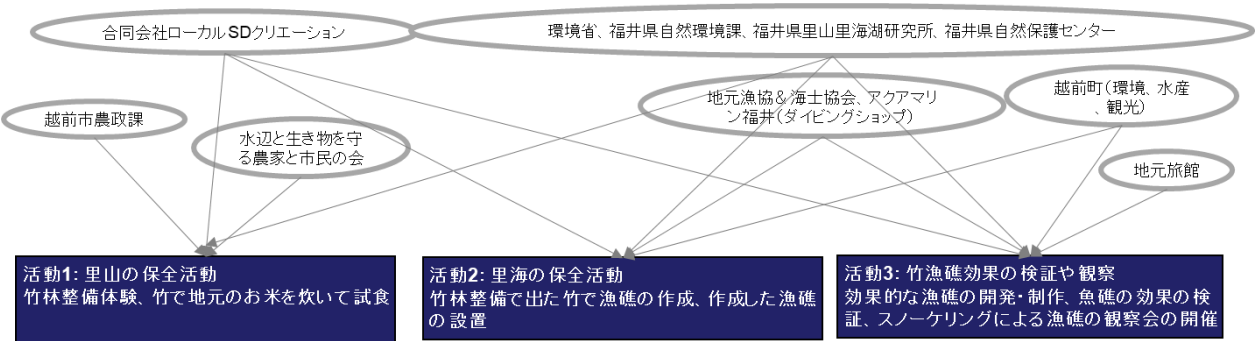
里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築

活動評価 2022 年 3 月～2024 年 2 月

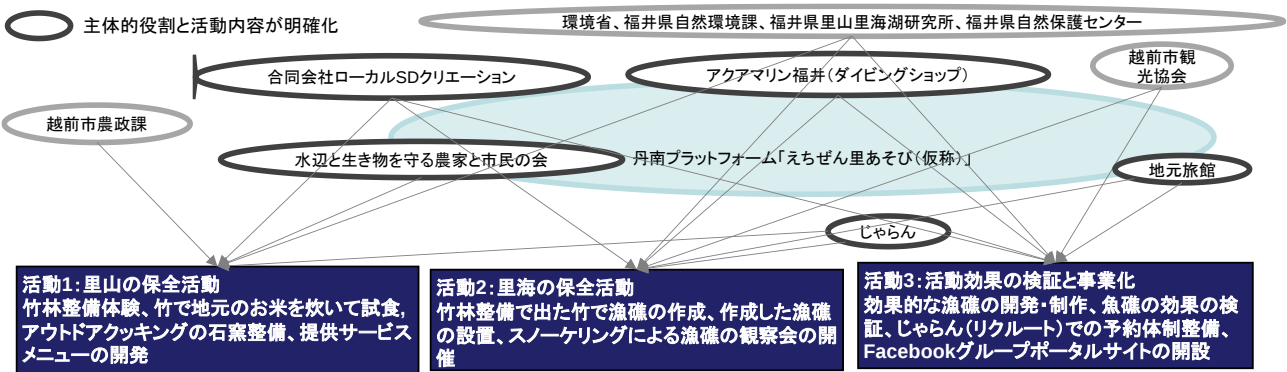
環境省 EPO 中部 2024 年 2 月 29 日

評価の視点 1：関係主体の変遷による協働と活動の推進

【2022 年 3 月時点のもくろみ】思い描いていた段階であり、具体的な役割は明確ではなかった。



【2024 年 2 月時点の状況】当所に比べ、誰が何をするのかがはっきりし、活動内容が充実化、明確化してきている。丹南プラットフォーム「えちぜん里遊び(仮称)」のビジョンが共有され各々の活動主体が連携しながら具体的な活動に取り組む状況となってきた。



評価の視点 2：選定指標による評価

小規模とはいえ、各指標とも順調に増加している。

	活動1	活動2	活動3	
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebook グループポータルサイトの開設	
貢献分野	【環境】	【環境】	【社会】	【経済】
採用指標	侵入竹林境界整備延長(m)	漁礁の設置数(箇所)	体験プログラムの参加者数(人)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)
SDG 貢献	指標	6.6.1、15.1.1		8.9.1
	ターゲット	6.6、15.1	4.7	8.9
	ゴール	G6、G15	G4	G8
基準 2022 年 3 月	0m	5 基	0 人	0 円
評価 2024 年 2 月	総延長 120m	計 23 基(2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人(2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)	合計 43,500 円(地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円)修学旅行参加を除く

評価の視点 2：選定指標による評価（詳細表）

	活動1	活動2	活動3	
名称	里山の保全活動	里海の水産資源の生息場の減少	活動効果の検証と事業化	
活動課題	モウソウチク林の拡大による里山の荒廃	里海の水産資源の生息場の減少	竹の漁礁としての効果の検証 体験プログラムの開発	
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食（モニタープログラムの実施）、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催	効果的な漁礁の開発・制作、魚礁の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebook グループポータルサイトの開設	
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
地域循環共生圏貢献内容	荒廃した里山の保全 里山資源利用の再認識	竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	里海の自然環境教育の普及・啓発 流域連携保全の構築	収益事業のプログラム運営による地元観光業への経済効果 グリーンツーリズムの活性化
採用指標	整備竹林面積 (ha)	漁礁の設置数 (箇所)	観察会等の参加者数 (人)	観察会等収益事業プログラム運用売上 (円)
貢献 SDGs 指標	6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化 15.1.1 土地全体に対する森林の割合			8.9.1 全 GDP 及び GDP 成長率に占める割合としての観光業の直接 GDP
貢献 SDGs ターゲット	6.6 山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。 15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	14.2 2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。	4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、(略)持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	8.9 2030 年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。
貢献 SDGs ゴール	G6: すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する G15: 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	G14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	G4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	G8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
基準 2022 年 3 月	0m	5 基	0 人	0 円
評価 2024 年 2 月	総延長 120m	計 23 基(2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人(2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)	合計 43,500 円(地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円)修学旅行参加を除く